

第3学年1組 国語科 学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
学 級：第3学年〇組
場 所：〇〇市立〇〇小学校3年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇

1 単元名 「ブックトークで『じーんとくる場面』をしょうかいしよう」

（教材名「ちいちゃんのかげおくり」 光村図書 三下）

2 単元の目標

○自分の心に響いた場面とそのわけを6年生に紹介するという目的をもって読書に親しむとともに、本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことができる。

（知識及び技能(3)オ）

◎心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。

（思考力、判断力、表現力等 C読むことエ）

○自分の心に響いた場面やわけを紹介するために、見通しをもって粘り強く取り組み、学んだことを生かしながら、本の紹介を行おうとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

3 単元について

(1) 児童生徒の実態

本学級は、読書が好きな児童が多く、朝の活動や休み時間に静かに集中して読書をする姿が見られる。そのことを生かし、5月には、「本は友達」の単元で、自分が好きな本を紹介し合う「3の1ビブリオ・バトル」を行った。図書室へ行って読書に浸る時間をつくり、自分で紹介する本を選び、特におすすめのページに付箋を貼って、どうしてその本が好きなのかについて根拠を基に自分の意見を話す学習をしてきた。学習後の振り返りでは、「今度は、とびっきりおもしろい本を探して友達に紹介したい」と書いたり、友達の話した内容をよく聞いてそのことについて感想を書いたりしていることから、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりする活動が好きな児童が多いことが伺えた。

また、これまで、物語文を読む学習として、「きつつきの商売」と「もうすぐ雨に」の2つの単元を学習してきた。

「きつつきの商売」の単元では、叙述を基に場面の様子を思い浮かべ、グループで音読発表会をする言語活動を取り入れた。場所や天気、登場人物がしたことなど、2つの場面の様子やそれらの大体の違いを読み取ることはできたが、様子を思い浮かべ工夫して音読する活動においては、個人差があった。そこで対話的な学びを行い、叙述に着目して想像を膨らませた児童が中心になって音読の工夫について話し合う中で友達の読みを共有できたグループがあった。ここでは、「場面」と「登場人物」の用語を初めて学んだ。

「もうすぐ雨に」の単元では、出来事に気を付けて登場人物の行動や気持ちを読み、好きな場面について話し合う言語活動を行った。物語文を読んで感じたことを友達と共有する中で、「人によって好きな場面や、その場面が好きな理由が違うのだと思った」と一人ひとりの感じ方の違いに気付いたり、自分だけでは気付かなかった新しい読みに関心を示したりすることができた。また、不思議な出来事が次々と起きていったことを物語文より捉える姿から、場面の移り変わりを捉えることができる児童が増えつつある様子が伺えた。その一方で、細やかな場面の様子の変化や登場人物の気持ちの変化について、根拠となる言葉や文を基に具体的に想像することについては、ワークシートに書かれている考えや話合いの内容から課題が残っているように感じられる。

このようなことから、本単元では、登場人物の気持ちや情景などについて、叙述を基に捉えたり、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像したりする力を育てていきたい。

(2) 教材について

本教材は、心に響く場面とそのわけを別の場面と結び付けて登場人物の気持ちや情景を具体的に想像するという内容であり、小学校国語科の教材文の中で初めての戦争に関する作品である。

本単元「ブックトークで『じーんとくる場面』をしょうかいしよう」では、学習指導要領第3学年及び第4学年の〔知識及び技能〕「(3)我が国の言語文化に関する事項 オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと」及び、〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」(1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」の指導事項を重点的に指導する。

本単元で仕組む言語活動は、特に「C 読むこと」(2) イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」を具体化し、「ブックトークで、『じーんとくる場面』とそのわけを6年生に紹介する」である。そのゴールに向かって、「じーんとくる場面」とそのわけを自分なりに捉え、友達の読みと自分の読みを共有し合うことを通して、場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けながら具体的に想像して読むことの大切さや楽しさを実感させたい。

①教科書教材

「ちいちゃんのかげおくり」は、第二次世界大戦下に生きた少女の物語である。「かげおくり」という遊びを軸にして場面の移り変わりを捉えやすい構成となっている。

3年生の児童にとって、自分たちが日々過ごしている平和な生活とは全く異なる戦争という状況を理解することは容易ではない。「出征」や「ほしいい」といった言葉の意味や、反戦につながる言動が禁止となっていた時代背景など、児童にとって疑問に思うことが多く出てくることが予想される。出てきた疑問については、国語辞典で調べたり、司書教諭によるブックトークを聞いたりして理解を深めていく。

また、自分たちと同じ子どもである「ちいちゃん」を中心に場面が展開するため、児童にとって感情移入しやすい作品である。移り変わる場面の中で、「じーんとくる場面」を見つけ、そのわけを別の場面と結び付けて想像を膨らませていく。物語の中で、ある出来事をきっかけとしてその前後の状況が大きく変化する部分で、読者の心が揺れ動いたり響いたりすることが多い。わけを考える際には、自分が着目した場面とその前後に注目して考えることで、複数の叙述を結び付けながら読み解くことができるようにする。

②関連する図書資料

並行読書では、子どもが主人公の戦争に関する作品を中心に、ある出来事をきっかけに前後で状況の変化がある、場面の移り変わりが捉えやすい構成の本を用意する。「じーんとくる場面」がある本を6年生に紹介し、平和について考えたことを伝えるという目的をもって、相手意識を明確にして取り組みたい。平和に関する様々な物語を読むことで読書の幅を広げるとともに、教科書教材で習得した資質・能力を自分が選んだ本で実践する機会とする。

※関連する図書資料例

『お母ちゃんお母ちゃーんむかえにきて』 奥田継夫 小峰書店
『伸ちゃんのさんりんしゃ』 児玉辰春 童心社
『よっちゃんのビー玉』 児玉辰春 新日本出版社

(3) 指導について

①主体的に取り組むための「目的の設定」と「児童と共に考える学習計画」

「何のためにこの学習をするのか」という目的意識をもつことは、児童が主体的に学習に取り組むための原動力となる。第1次では、目的を意識するために、教科書教材に入る前に問題提起を行い、自ら課題を発見できるようにしたい。

はじめに、指導者が今夏読んだ戦争を扱った内容の本を紹介する。「じんとくる場面」とそのわけを伝える中で、多くの人々の尊い命を奪った戦争について知るとともに、その過ちを二度と繰り返してはいけないという思いをもたせたい。自分たちができることは何かを問いかけ、戦争や平和を題材とした本を読み、「じんとくる場面」を6年生に紹介して平和について考えたことを伝えるという目的を意識できるようにする。

次に、目的を達成するためにどのような学習過程が必要であるかについて児童と一緒に考えて学習計画を定め、学習の見通しをもつことができるようにする。6月に学習した『説明名人』のひみつをさぐり、昔遊びプレゼンターになろう(「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」光村図書)の単元で、児童は自分たちで学習計画を立てている。その時の経験を生かし、目的を達成するために本単元で何をしなければならないかを意識し、自分事としてより主体的に学習に取り組む態度につなげていきたい。

②場面ごとの「読み取り」ではなく、心に響いた場面とそのわけに着目した「読み解き」

本単元の目標の一つに、本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことがある。登場人物とともに自分が体験したことのない環境に身を置き、ある出来事をきっかけに大きく状況が変化する様子を想像したり、いつの時代にも共通する人間の喜びや悲しみ、悔しさなどの思いに共感したりするときに、本当の読書の楽しさや魅力を実感することができる。しかし、これまでの国語科の学習では、物語を場面ごとに区切って読み、指導者が提示する課題について考えて読み取る形態が多かった。決められた時数内で効率的に指導するという点ではそのよさもあるが、読書の楽しさや魅力を感じられるかという疑問が残る。

そこで、学習の主体者である児童が着目した心に響いた場面を起点として学習を進めていく。心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けながら具体的に想像していく。物語を読んでいて心に響くという状況を考えると、心に響く場面に至るまでにあった「何か」が、ある出来事がきっかけで自分が着目した場面で「何らかの変化をした」ということが多い。「別の場面」から「じんとくる場面」までの変化を読み取ったり想像したりして、そのわけを説明することで、複数の場面の叙述と叙述を結び付けて考えられるようにする。

児童自らが選んだ場面であるため、言語活動に取り組む意欲が湧くとともに、友達の選んだ場面にも興味・関心が向きやすく、対話の活性化につながると考えられる。また、それぞれの意見を全体で共有することで、深い読みにつながることを期待できる。

③「教科書を学ぶ」のではなく、「教科書で学ぶ」ための単元構成と言語活動

本単元で特に育成したい資質・能力は、心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像する力である。第1次は、課題を立てて見通しをもち、第2次は、教科書教材で学習したことを、並行読書で選んだ本に活用する単元構成とする。本単元では、「ブックトークで、『じんとくる場面』とそのわけを6年生に紹介する」という課題を設定する。第2次前半で、教科書教材を読む際に「じんとくる場面」とそのわけを別の場面と結び付けながら想像して読むことを学ぶ。そして、後半で戦争や平和を題材とした関連する図書資料を読む際にそれを生かし、自分が選んだ本で実践する流れにする。

(4) 「読み解く力」に関わる目指す児童の姿とその育成のための手立て

<p>【「読み解く力」の二つの側面】</p> <p>A … 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B … 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>【「読み解く力」の三つのプロセス】</p> <p>① 発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す</p> <p>② 分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する</p> <p>③ 理解・再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
--	---

本単元で設定した言語活動は、戦争を題材にした作品を読み、「ブックトークで、『じーんとくる場面』とそのわけを6年生に紹介する」ことである。第1次の導入では、目的意識をもたせ、目的（ゴール）の実現に向けた学習計画を立てる。第2次ではブックトークに向かって課題解決を図る中で付けたい力の育成をねらう。第2次を前半と後半に分け、前半では、教科書教材「ちいちゃんのかげおくり」でブックトークをするために必要な力を付け、後半では、それを生かして自分が選んだ関連する図書資料で活用する。第3次では、自分が選んだ図書資料についてのブックトークを行い、学習を振り返る。

このような単元構成から、第2次前半と後半において、それぞれ下記のような児童の姿を目指したい。

第2次前半では、「必要な情報を確かに取り出す力」と「情報を比較し、関連付けて整理する力」に関わって、教科書教材で「じーんとくる場面」とそのわけを叙述をもとに発見し（A①）、登場人物の気持ちの変化や情景を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けて想像しながら、読み解けるようにする（A②）。そのために、自分が選んだ場面とその前後の場面に注目することで、自分がその場面を選んだわけが場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付いていることに気付くことができるようにする。児童に「どの場面が『じーんとくる場面』でしたか」、「それはどうしてですか」、「それはどこに書いてありましたか」と問いかけて対話する中で、わけを考えるとときに違う場面とつなぎ合わせて読み解いていることに気付かせる。そのような読み方を指導するのではなく、対話によって獲得したと児童が学びの実感を得られるような場を設定したい。

次に、教科書教材で「じーんとくる場面」から読み解いたことを中心に友達と話し合う中で、友達が「じーんとくる場面」やそのわけについて、自分の考えと比較したり、関連付けたりすることで、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化をより深く読み解く姿を目指したい（B②）。そのために、グループ編成を工夫したり、話し合いを活性化させるためにどんなやりとりができればよいかを、児童が具体的にイメージできるようにする。また、全文シートをグループごとに配付し、記名した付箋を貼ることで、友達が「じーんとくる場面」のどの叙述について話しているのか視覚的に分かるようにする。

前半の最後に、「自分なりに解決し、知識を再構築する力」に関わって、教科書教材についての友達の意見を聞いて、自分の考えを再度吟味し、聞き手により伝わる内容にするにはどうすればよいか再検討する姿につなげ、よりよい考えを形成できるようにしたい（B③）。そのために、再構築する時間を確保し、再構築したものを全文シートに書き込みながら全体で共有することで、一人ひとりの読みの深まりにつなげていきたい（A③）。

第2次後半は、まず、教科書教材で学んだことを生かして、ブックトークに向けて並行読書をしてきた図書資料から「じーんとくる場面」やそのわけとなる部分を取り出し（A①）、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて想像を広げて読み解く姿を目指したい（A②）。自分でブックトークの内容をまとめることが難しい場合は、最初に行った指導者のモデルを参考に自分の読みを加えてまとめるようにする。

「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」の「情報を比較し、関連付けて整理する力」に関わって、第2次後半では、自分が選んだ本の中で「じーんとくる場面」とそのわけについて友達の考えを捉え（B①）、その意図を理解し（B②）、自分の考えに生かそうとする姿を目指したい（B③）。そのために、対話のグループは、原則として、お互いが紹介しようとしている本を読んでいるメンバーで構成するようにする。本番に向けて、自分のブックトークの内容がまだはっきりと決ま

っていない「迷い」がある状態で、「相談し合う」という形態の対話にすることで話し合いを促すとともに、その後、全体で共有する見通しをもつことで、話し合いに必然性をもたせるようにする。交流後、話し合ったことを基に再考し、自分の意見を再構築する機会をもつ（A③）。

第3次では、6年生を対象にブックトークを実際に行う。その後、自分のブックトークを振り返り、この経験を次の学習へ生かそうとする姿を目指したい。そのためにも、ブックトークでは、聞き手の児童が話し手に質問できる時間を設け、双方向のやりとりができるようにする。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・「ちいちゃんのかげおくり」や関連する図書資料のブックトークをするために、読書の幅を広げ、新たな知識を得たり、読書の魅力に気付いたりしている。</p> <p>(3)オ)</p>	<p>・「ちいちゃんのかげおくり」や関連する図書資料のブックトークをするために、心に一番響いた場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の叙述と結びつけることを通して、具体的に想像している。</p> <p>(C 読むことエ)</p>	<p>・目的を達成するために見通しをもって粘り強く取り組み、学んだことを生かしながら、ブックトークを行おうとしている。</p>

5 単元の指導と評価の計画（全12時間、本時6／12）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	0	<p>【下地をつくる】</p> <p>○戦争や平和を題材とした本を読む。</p> <p>○戦争や平和を題材とした本の読み聞かせや司書教諭によるブックトークを聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時の約2週間前から、戦争や平和を題材とした作品を集めた「心の鐘文庫」を設置する。 ・読んだ児童の感想を取り上げ、興味をもたせ、並行読書につなげる。 ・読み聞かせや司書教諭によるブックトークを通じて、読書に関心が向かない児童が関心をもつきっかけや、戦時中の様子を表す語句について知る機会をつくる。 	
	1	<p>【課題を立てる】</p> <p>○指導者の本の紹介を聞いて、課題意識をもつ。</p> <p>○「ブックトークで『じんとくる場面』をしようかいう」という、単元のゴールイメージをもつ。</p> <p>○「ちいちゃんのかげおくり」を読んで「じんとくる場面」と感想をワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が今夏読んだ本の「じんとくる場面」とそのわけを紹介し、ブックトークのモデルを示す。 ・ブックトークで何を紹介するかを問い、心に残ったり響いたりした場面が「じんとくる場面」であることを共通認識する。 ・物語を初めて聞いて心に響いたところを忘れないように、教科書に付箋を貼る。 	<p>□関連する図書資料のブックトークをするために、読書の魅力に気付いている。(知技(3)オ)</p>

	<p>7 【自分で考える・学び合う】 ○「ちいちゃんのかげおくり」のブックトークを行う。</p> <p>○グループで感想の交流を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>前時で考えた「じーんとくる場面」とそのわけに自分の思いを加えてグループで発表する。</u> ・<u>違う場面を選んだ児童でグループを構成し、その叙述と叙述を結び付けるかによって多様に想像を広げて読むことができることに気付けるようにする。</u> 	<p>□目的を達成するために見通しをもって粘り強く取り組み、学んだことを生かしながら、ブックトークを行おうとしている。(主)</p>
	<p>8 【自分で考える】 ○並行読書の中から6年生に紹介する本を決める。</p> <p>○「自分が選んだ本」で、「じーんとくる場面」とそのわけを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書をしてきた本の中から、ブックトークで紹介する本を決める。 ・第2次前半で学んだ基本的なスキルを並行読書をしてきた自分が選んだ物語文で活用する 	<p>□関連する図書資料のブックトークをするために、読書の幅を広げて本を読んでいる。(知技(3)オ)</p> <p>□関連する図書資料のブックトークをするために、心に一番響いた場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して具体的に想像している。(思判表Cエ)</p>
(後半)	<p>9 【自分で考える・学び合う】 ○「自分が選んだ本」で、「じーんとくる場面」とそのわけについて、友達と話し合う。</p> <p>○話し合いを受けて、自分が考えた説明の内容をもう一度考え、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>紹介する本を読んだことがあることを前提として、児童でグループを構成するようにする。</u> ・<u>交流した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。</u> 	<p>□関連する図書資料のブックトークをするために、心に一番響いた場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して具体的に想像している。(思判表Cエ)</p>
	<p>10 【自分で考える・学び合う】 ○「自分が選んだ本」を読んで理解したことについて、感想をまとめる。</p> <p>○グループで感想の交流を行う。</p> <p>○交流を受けて、自分が考えた感想の内容をもう一度考え、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>「一番じーんとくる場面」とそのわけに基づいて、自分のこれまでの体験に引き寄せて考えたり、自分に置き換えて想像したりして思ったことや考えたことを書くようにする。</u> ・<u>同じ本を選んだ児童同士、もしくは、友達が紹介する本を読んだことがある児童同士でグループを構成するようにする。</u> ・<u>交流した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。</u> 	<p>□目的を達成するために見通しをもって粘り強く取り組み、学んだことを生かしながら、ブックトークを行おうとしている。(主)</p>

三	11	○ブックトークの発表会ができるように、役割分担をしたり、練習をしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・『じーんとくる場面』を6年生に紹介して平和について考えたことを伝える」という目的を再度確認する。 ・学級の枠を越えて行うことを認識し、そのために必要なものや役割は何かを考えられるようにする。 	□目的を達成するためにどのような準備が必要かを考えようとしたり準備しようとしたりしている。(主)
	12	○ブックトークを行う。 ○自分たちのブックトークを振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の児童を対象に行い、司会や進行等、児童が主体となって行う。 ・2グループに分かれて進行し、6年生から質問があれば答え、双方向の交流となるようにする。 ・これまでの学習を通して、上手かったことや課題となったことを振り返り、次はどうすればよいかを考える。 	□目的を達成するために、物語から読み取ったことや自分の考えを発信している。(主)

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

6 本時の目標（本時：6／12時間目）

場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

7 本時の評価規準

「ちいちゃんのかげおくり」の「じーんとくる場面」のわけをわかりやすく説明するために、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像している。(C読むことエ)

8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
10:40	1. 見通しをもち、課題を再確認する （3分） ・ブックトークで自分が選んだ物語の「じーんとくる場面」とそのわけを紹介することを確認して、学習の流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的と、単元の初めに児童と考えた学習計画を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・「じーんとくる場面」を説明する「わけ」がはっきり考えられていなかったり、迷いがあったりすることを引き出し、学び合いへの目的意識を高める。
10:43	2. めあてをもつ （2分） わたしの「じーんとくる場面」をしょうかいするために、一番ぴったりくるわけは何だろう。	
10:45	3. グループで共に学び合う （15分） ・全文シートの「じーんとくる場面」が記載されている部分に記名した付箋を貼る。 ・「一番じーんとくる場面」とそう考えた「わけ」について、同じ場面を選んだ児童同士のグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示している全文を縮小したシートを各グループに渡し、着目した部分に記名した付箋を貼ることで、各児童の「じーんとくる場面」を視覚的に共有できるようにする。 ・対話を途中で一旦止めて、対話がうまく成立しているグループがどのように話し合いを進めているかを共有し、対話の活性化につなげる。

11:00	<p>4. 自分で考える (7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>共有した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。</u>
11:07	<p>5. 全体で共に学び合う (13分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再構築したことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>全文揭示の叙述と叙述を線でつなげたり、変わったものを書き込んだりすることで、友達の考えを視覚的に共有できるようにする。</u> ・<u>「じーんとくる場面」とその「わけ」を全体で視覚的に共有することで、結果として場面の移り変わりを読み解くことにつながるようにする。</u> <p>□心に響く場面とそのわけを説明するために、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像している。(C 読むことエ)</p>
11:20	<p>6. 学習を振り返る (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。 ・次時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを再確認し、めあてに対する答えとなるような振り返りになるようにする。

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

9 授業参観の視点

- ① 文章の中から「じーんとくる場面」とそのわけを見つけ、場面の移り変わりや複数の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を捉えることができていたか。また、そのための手立てや支援は有効であったか。
- ② 「共に学び合う」の場面で、各自が相手の考えや意図を理解し、自分の考えの再構築に役立てる話合いになっていたか。